



# 全国連合退職校長会

# 会報



会長 挨拶

## 「コロナ禍における総会」

全国連合退職校長会会長 入子 祐三

皆様にはご清祥にてお過ごしのことと存じます。常日頃より全連退の事業活動にご協力を賜り有難うございます。

さて「令和三年度理事会・総会」を六月二日・三日に予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度に続き自粛せざるを得ないと苦渋の決断をし、一堂に会する「理事会・総会」を中止し書面議決（賛否・要望を回答用紙記入）開催としました。

本年は役員交代の年度になっておりますが、副会長会・常任理事会等の役員の承認を頂けたものとして活動を進めます。また「活動目標・事業計画」につ

いても可能な限りの取り組みを進めますので、ご理解・ご協力をお願いしたいと存じます。なお、諸会議の日程や会場設定などの調整は、コロナの感染状況を見ながら運営しなければと思っております。

先年度、総会にて「デジタル教科書の現状と課題」の講演会を計画しましたが、残念ながら中止となっております。

デジタル教科書による指導については「健康・視力に影響がある。ノウハウ不足である」等、教育現場から懸念・不安の声が聞かれます。コロナ禍の猛威に負けない教育改革のスピードアップも結構ですが、慎重に進め

ることも重要ではないかと思えます。このまま流れてしまうと、地域・家庭環境による学力差や混乱が生じたりするのではないかと思います。

年度初めに、懸案だった「三十五人学級」の改正法が成立し五年間で移行することが決まったことは、要望活動の成果と受け止めたいと思います。

オンライン教育や小学校高学年に教科担任制を導入する件等は、来年度以降の課題として、中央教育審議会で審議すると聞いています。慎重な審議をお願いしたいものです。

新型コロナウイルスの感染が広まる中、心身ともにたくましく生きて行く人材の育成には、新しい時代に相応しい教育の充実・向上に努める必要があると考えます。学校現場の応援団として、会員の皆様の可能な支援協力をお願いしたいと存じます。

令和3年度役員一覧

監 事	常 任 理 事	副 会 長	会 長	本 部
酒野横藤橋三村岡荻田村本須大 多西石新梅	廣濱中久江松木黒入	田田川保本井村坂子		
井本内崎本上山野原中山間田保 田城田沼原	稔俊英和幸由祐	夫治隆志隆夫治子三		
傳キ清武誠裕忠仁武昭信重丈正孝隆 美ミ信利司三幸司雄光一信清則夫俊作三勤 雄子信利司三幸司雄光一信清則夫俊作三勤	夫治隆志隆夫治子三	夫治隆志隆夫治子三		
三埼青東東東東東東新長山神東千埼枋茨 重玉森京京京京京京京湯野梨川京葉玉木城	大高鳥兵愛群岩北東	分知取庫知馬手	海道京	

理 事 (副 会 長)	理 事 (副 会 長)	理 事 (副 会 長)	理 事 (副 会 長)	理 事 (副 会 長)	地 区
竹富片久 若田山保 洋剛智英	川大土堀堅結江 合塚田田畑城本 俊哲繁良政正	澤稲松 口葉井 昭 和	佐佐高小奈木 藤藤橋山良村 俊利一 年 幸	千黒 田坂 由紀子	
三史成志 大京滋兵 阪都賀庫	平雄男里行齐隆 三静岐福石富愛 重岡阜井山川知	正一夫 千埼群 葉玉馬	福山秋宮青岩 鳥形田城森手	薰北 海海 道道	

事 務 局 員 長	理 事 (副 会 長)	理 事 (副 会 長)	理 事 (副 会 長)	理 事
佐川 々木井 多美子 東東 京京	幸内濱上作森伊池廣 地村砂田本永藤田田 正和由耕和圭二稔 忍弘雄子一雄二男夫	畑後石濱 野藤川田 智文和	田徳山塩中 中永根川川 淳正文俊	加宮 賀本 博
	冲鹿宮熊長佐福福大 縄島崎本崎賀(中)(小)分	愛香徳高 媛川鳥知	山広岡島鳥 口島山根取	和奈 歌山 良

全国連合退職校長会 綱領

われわれは 全国連合退職校長会の設立以来の歴史や活動を継承しわが国の教育の将来を見定め 会員としての自覚と誇りをもって ここに綱領を制定する

- 一 教育尊重の気運を高め 日本での教育の振興に寄与する
- 一 生きがいをもって生涯学び続け 充実した生き方を実現する
- 一 会員の親睦を図り 福利・厚生 の拡充に努める
- 一 地域の教育・文化の向上や 良好な環境の形成に尽力する
- 一 関係機関・団体と連携・協力して 活動の発展を図る

平成十六年六月十七日 (設立四十周年) 制定

※この綱領は総会において、出席者全員で唱和する予定でした。

令和三年度 総会 宣言

新型コロナウイルスの感染の収束が望まれる中、心身ともにたくましく生きていく人材の育成には、教育尊重の気運を高め、新しい時代に相応しい教育の充実、向上に努めることが大切である。また、今日の社会保障制度改革の動向を見据えて、会員の福祉の増進に努める必要がある。

この時に当たり、全国連合退職校長会は、諸課題について考究し、時宜に応じた意見や提言を発信するなど、各都道府県の退職校長会の連合体としての活動を進めていく。ここに、総会において、左記事項の実現に尽力することを宣言する。

記

- 一 各都道府県の退職校長会との連携を一層密にし 健全な教育世論を喚起し 教育の振興に寄与する
- 一 質の高い学校教育を願い 教育諸条件の整備・充実を期し 政府・関係機関への要望や意見具申を行う
- 一 安心できる社会保障制度の確立のために関係機関に要望を行い 会員の福祉の増進に努める
- 一 「チーム学校」の働き方改革の支援と地域学校協働活動への参画を通して 家庭や地域の教育・文化の振興に努め 併せて生きがいのある生涯学習を實踐する
- 一 会員相互の絆を大切にし 情報の共有や共通理解を図り 関係機関・団体との連携を一層深め 組織の拡充・活性化を着実に進める
- 一 国民こそって教育の在り方を考える日として 国民の祝日「教育の日」の制定と活動内容の充実を図るため 関係機関や団体とともにその推進に努める
- 一 東日本大震災・原発事故をはじめとする自然災害等により被災した地域の復興・創生と教育環境の正常化を政府や関係機関に求めるとともに 会員の相互扶助と連帯の精神により支援に努める

全国連合退職校長会

※この総会宣言は、令和三年六月三日 第五十七回全国連合退職校長会総会において採択が予定されていたものです。

令和三年度 活動目標・事業計画

活動目標

全国連合退職校長会は、教育尊重の気運を高め教育振興への寄与と会員の福祉の増進に資することを目的とし、諸活動の円滑な運営に努め、各都道府県の退職校長会相互の連携を密にし、連合体としての充実した活動を展開する。

1 各都道府県の退職校長会との連携・協力を一層密にし、組織の拡充・活性化に努め、期待され存在感のある退職校長会を目指す。

2 存在感のある退職校長会（存在感のある退職校長会）定数改善・処遇改善等の教育諸条件の整備・充実を図るため研究協議を深め、時宜に応じて政府・関係機関へ要望や意見具申を行い、教育の振興に寄与する。

（教育の振興）

3 安心できる社会保障制度の確立のために関係機関に要望を行い、会員の福祉の増進に努める。

4 教職員が本来の教育活動に専念できるよう、外部人材の活用や「チーム学校」の仕組み等の働き方改革に関し支援を行う。

5 働き方改革への支援

6 地域全体で子供たちの成長を支え、地域の教育力の向上を目指す地域学校協働活動等への参画を通して、家庭や地域の教育・文化の振興に寄与する。

7 教育関係諸機関・団体と連携し、相互の協力・交流を深め、諸事業の円滑な運営に努める。

（諸機関・団体との連携）

8 生きがいのある生涯学習を実践し、会員同士の交流や研修・親睦を深め、豊かな生き方の実現に努める。

9 国民こそぞって教育の在り方を考える日として、国民の祝日「教育の日」の制定並びにその活動内容の充実を図り、教育尊重の気運の喚起・醸成に努める。

10 「教育の日」の推進

11 今なお復興途上の東日本大震災・原発事故をはじめとする自然災害により被災した地域の復興・創生と教育環境の正常化を政府や関係機関に求めるとともに、会員の相互扶助と連帯の精神に基づいて支援に努める。

（激甚災害地支援）

事業計画

総務部 《総務部長 田中昭光》

1 本会の綱領や教育憲章の精神及び各退職校長会の意向を踏まえ、年度の目標を定め、各組織間の連絡・調整・相談等に当たるとともに、諸事業の円滑な進行、諸課題の解決に努める。

2 総会、理事会、副会長会、常任理事会等の企画・運営に当たる。また記念講演の企画・実施に努める。

3 関係省庁や中央教育審議会等への要望・意見具申・提言に努める。

4 文部科学省初等中等教育局長との教育懇談会の企画実現に努める。

5 全国組織の教育関係団体と連携するとともにその支援に努め、本会の存在意義の高揚を図る。

6 全連退情報・会報の発行や

ホームページの充実に努め、各都道府県退職校長会への迅速な情報提供をするとともに、情報の共有化を図り会員の連

帯感の醸成に努める。

7 「令和3年度 年間紀要」の編集発行に努める。

8 「新年度の活動目標・総会宣言」の素案を作成する。

9 「財務状況健全化検討会議」

「組織対策検討会議」「運営対策会議」の検討結果を部長会・常任理事会等に諮り、成果

の具現に努める。

10 研修会を企画・運営し、情報の収集に努める。

教育振興部

《教育振興部長 荻原武雄》

1 「教育の日」について、未制定府県・市町村の制定推進

並びに制定都道府県・市町村の事業の充実に寄与するとともに、国民の祝日としての制定を国に働きかける。

2 「親が子供を叱ることの大

切さ」の調査研究のまとめをする。

3 「全連退教育憲章」の趣旨の徹底・普及に努める。

生涯福祉部

《生涯福祉部長 岡野仁司》

1 生涯学習活動の振興・充実に係る情報の収集と広報に努める。

2 会員並びに後進の生活安定・安全に係る情報の収集と広報に努める。

3 年金・高齢者医療・介護等の改善・充実に係る全連退の

提言・意見を日本退職公務員連盟等と連携して関係省庁に要望する。

4 叙勲における義務教育関係者の格上げと叙勲枠の拡大を

関係省庁に要望する。

5 米寿・上寿を迎える会員を調査し、賀詞・寿詞を贈り長寿を慶祝する。

広報部

《広報部長 村山忠幸》

1 全連退の機関紙として、会報には主要な会議や中央省庁等への要望活動、教育情報等を掲載する。

2 本年度は、年4回(20号)

223号)の会報を発行する。発行予定日は、6月30日、9月30日、1月1日、3月15日とする。

3 新会員勧誘支援用として、221号(9月30日号)または222号(1月1日号)を希望する

都道府県各団体に増配する。

4 全連退ホームページをリニューアルし、その更新を適宜行う。

会計部

《会計部長 三上裕三》

1 各都道府県の退職校長会と綿密な連携のもと、会員数の確保や増収に努める。

2 諸事業が順調に進められるよう、財務の適切な執行・運用に努めるとともに、「財務

状況健全化検討会議」を継続し、将来展望をもった対応策を検討する。

教育課題委員会

《教育課題委員長 橋本誠司》

1 文部科学省等の情報を収集するとともに、当面する教育課題(「令和の日本型教育」の構築、デジタル教科書の導入、など)について調査研究する。

事業委員会

《事業委員長 藤崎武利》

1 各団体の総会日程の把握及び祝意に関する事業を行う。

2 各団体の概要の収集・整理を行い、存在感のある事業等を紹介する。

3 本部としての研修及び情報交換に関する事業を行う。



## 会の意義を再確認しながら

北海道退職校長会

会長 黒坂 由紀子

本会は、昭和四十年に結成され、「会員相互の親睦・福祉増進と北海道教育振興への寄与」を設立の方針として、活動を続けています。広域な道としては、各支部と道本部・支部相互の連携を強めて組織の活性化を図ることが大切である。令和二年度はコロナ禍の中、総会・支部代表者会・地域懇談会を中止せざるを得なかった。しかし、広報誌・ホームページを通して、支部の様子やそれぞれの地区で活躍する会員の取組や思いを発信し、魅力ある会として所属感を高める工夫をした。また、教育振興への寄与については、各支部それぞれに地域の特徴を生かして、見守り活動・学習支援等への協力を通して学校との連携を工夫しながら続けている。道

## コロナ禍の中での活動

福井県退職校長会

会長 堀田 良里

本会は昭和四十年に結成され、昭和五十一年に県退職校長会として正式に発足しました。会員数は千百名程と少ないですが、仲良く相互の研修・親睦に努め、教育の振興にも寄与したいと願っています。

コロナ禍において本会の活動は変更や中止が続いています。総会のかわりに理事会を開催しましたが、講演や懇親会は中止せざるをえませんでした。常任理事会は避密・消毒・換気等に気をつけて実施して、地区の活動との連携に努めました。会報

「碧窓」の発行、現職の代表や教育長等との話し合い、例年行っている中学生の税についての作文審査、各地区における現職校長との交流は、実施することができました。

学校現場においても、卒業式・入学式をはじめ学校行事が縮

小中止されており、学校間の連携にも支障がでてきております。また、授業時数を確保するため季節の休みが短縮され、授業の中でも話し合い活動等は回避されております。逆にこうした機会を生かして、ネットワークを通じて文書を送ったり話したりすることで、新たな学びを深めていってほしいと思います。

私は、子どもたちにも、私たち会員にも、信頼できる仲間との人間的なふれあいがある健康にとっても大事だと思っています。あらゆる面でふれあいが制限される中、少しでも会員の生きがいと喜びにつながる活動を実施していきたいと考えます。幸い本会は、創立五十周年を迎えているので、記念誌の発行を契機に人間関係の大切さを再認識していきたいです。

関係機関への要望をはじめ、様々な活動に取り組んでくださっている全連退の皆様に深く感謝し、今後の活動にがんばっていきます。

## コロナ禍の中の教友会活動

和歌山県教友会

事務局長 北澤 正憲

本県の活動もコロナ禍によって変容を余儀なくされた。

総会やそれに伴う諸会議の中止によって活動が大きく制限された。県下8支部の総会も中止となり、支部の活動も会合も役員レベルで開催された。

県本部の活動が再開されたのは、「理事会」は7月から、「支部長・事務局長会議」は9月からで、以後の会合は予定通り開催できた。しかし、計画していた「教育講演会」「文化材巡り」「施設等訪問研修」「囲碁大会」「パークゴルフ大会」等の行事は中止を余儀なくされた。

そういう厳しい状況の中ではあったが、広報部が年4回発行の機関紙『教友』を発行、研究文化部は2回の理事研修会を開催、組織部は人材バンク活動を実施、という行事を感染予防措置を取りながら実施できた。

8月に「第六期きのくに教育審議会答申」が出され、少子化のなかでの県立高等学校の再編整備計画を策定し、広く県下に意見を募った。県教友会として

要望書を提出したのが令和2年度の本県独自の活動であった。コロナ禍ではあったが、執行部

会議、支部代表者・専門部長会議を開催し、広く各支部や理事の意見を集約し、「県立学校の再編整備に関する要望書」を作成し、11月に県教育長に提出した。

また、「社会を明るくする運動」県推進委員会より、作文コンクールの選考を依頼され、本年度も協力することになり、7名の選考委員が10月に作文選考会を実施した。

総会や行事等が中止になっていく中で、以上のような活動が実施された。コロナ禍での制限された活動であったが、そのことにより1500余名の教友会員の絆を深めることができた。

## 「ふくおか教育月間」

制定なる

福岡県退職中学校長会

会長 伊藤 圭二

新型コロナウイルスが猛威を振るい、国は令和2年4月7日、福岡県を含む7府県に対し、「緊急事態宣言」を発し、更に5月5日には、31日までの継続を行った。

このような事態になり、本会にあっても、ウイルス感染症の拡大は避けなければならぬとの思いで、「評議員会」「総会」の開催を中止せざるを得なかった。

その対応策として、新旧副会長会・新旧区郡市会長・役員を代表代議員とみなし、総会（書面議決）をお願いした。結果は全員の承認を得て活動を開始した。

さて、令和2年2月5日の福岡県教育委員会議において、「ふくおか教育月間」を制定す

る旨決議、2月21日に告示された。

福岡県退職中学校長会としては、22年の歳月を要したが、やっと「ふくおか教育月間」という形で制定にこぎつけることができた。これまでの諸先輩の方々の努力が報われたという思いでいっぱいである。また、福岡県退職中学校長会の令和元年度の大きな活動目標でもあったので大変喜ばしい。

この結果、県教育委員会・地連教育長会との協議など、県退職小学校長会とも連携して要請活動を展開してきたことが実を結んだことになった。

令和2年度は、制定初年度ということで、11月23日（祝）福岡市のアクロス福岡で記念行事がコロナ禍で参加者を制限して開催された。

今後は、この「教育の日」の取組を県内各市町村の「教育の日」制定に向けた活動へつなげていきたい。

感謝状並びに記念品贈呈者

(1) 退任副会長

- 奈良 年永様 (東北)
- 新沼 隆三様 (関東甲信越)
- 上野 清次様 (近畿)
- 山本比香流様 (中国)
- 北須賀逸雄様 (四国)
- 濱砂 和雄様 (九州)

(4) 退任理事

- 田中 保和様 (大阪)
- 坪田 勝彦様 (兵庫)
- 西村 捷義様 (鳥取)
- 鷺尾 実様 (広島)
- 井上 和洋様 (佐賀)
- 上口 耆英様 (長崎)
- 大森 勲様 (熊本)
- 安部 和夫様 (大分)
- 山田 稔様 (沖縄)
- 田崎 一郎様 (北海道)

(2) 退任常任理事

- 原 秀介様 (群馬)
- 佐藤美小王様 (千葉)
- 富田 知信様 (神奈川)
- 大竹 肇様 (新潟)

(3) 退任監事

- 鈴木 幹雄様 (山形)
- 石田 和男様 (群馬)
- 平瀬 仁紀様 (石川)

※本来ですと定期総会の時に贈呈いたしま

すが、今年度は総会が中止になりましたので、6月18日付で発送いたしました。

地方の会報紙より



北海道退職校長会会報

「退職校長会だより」第234号

人生の楽園づくりに

夢中の日々

北広島支部 開発 好博

に、いずれは自分たち自身も世話になるだろうと考えるようになっていた。

最近人生百歳時代と言われているが、66歳になった現在は、まだ3分の2。では、残りの3分の1の時間をどう生きるかも今のテーマに。思えばこれまで、より前を、より上をと邁進し、より多くのものを得ること、言わばアクセルを踏みっぱなしであった。が、大事にしていた茶碗も、飾るだけでなく使って楽しんでこそ価値があるものだし、集めた物もそのままに終わってしまいそうなものがたくさんあることに今更ながら気が付いた。「人生を終えた後に残る物は、いかに集めたかではなく与えたか」という言葉を思い出した。妻の口から、地域の老人が気楽に集まれる場所がないんだという話を聞き、それならばと長年住み慣れた家、土地などのほとんどを地域に開放することにした。

地域には、多くの老人がいる。

38年間の教職生活を終え、少し寄り道していたらあつという間に5年。いよいよ地域デビューかと思っていたがこれがなかなか難しい。焦る気持ちとは裏腹に時間はどんどん過ぎていく。幸いなことにまずまず健康な現在ではあるが、ふと子規の短歌に「今年ばかりの春は行きにけり」とあつたのを思い出す。今年の花は、来年は必ず見られるとは限らないということが、勤めを全て終えてはじめて思うようになった。そんな折、妻が以前から関わっていた「傾聴」、「百歳体操」などの地域ボランティアのことを聞いているうち



自分ももうその仲間だ。今は夫婦で不自由はなくても、いずれ歳を重ね誰かの助けが必要になる。また、夫婦のいずれかは先に逝き、残された者は「お一人様」だ。そうしたときに頼りになるのは遠くの肉親よりご近所の他人だ。相互扶助の関係が最後まで可能になるためには早い時期からの繋がりがなければ難しい。しかし、そのための地域のコミュニケーションが失われてきている昨今だからこそ、知り合いになる機会を作らなければならない。「地域のあそび場ゆとりの」というNPOを設立した。

まず地域交流の場づくりからスタート。法人にしたのは、自分たちが中心となって活動できなくなり、地域にお世話になる時期が来ても、なくならない組織として継続していつて欲しいからだ。

「ゆとりの」では、難しいことは無し。定期的に健康に良い百歳体操でゆったりと体を動かし、「ふまねっと」や脳トレも

する。また、麻雀をしたり、時期が来たら百人一首も。これらは、昔どこの家でも家族で楽しんでた懐かしい遊びではあるが、今はほとんどない。だから懐かしく時間の過ぎるのを忘れる。その後はお茶を飲みながら楽しい時間を過ごす。老人には「きょういく」と「きょうよ」が大事だと聞く。だから、今日行くところ、今日用事があるために、週に一回でも、そういう場所や機会があることは大事だと思う。しかし、地域の理解を得、定着していくためにはそれなりの手間がかかる。そのために、看板を作ったり、庭に手作りベンチを置いたり、ジャングル状態の庭を整理したり…。

アナウンスも必要。チラシも発行した。百歳体操、ふまねっとなどが始まりだったが、脳トレ、麻雀を楽しむ会、大人のための

絵本の会、百人一首…などどんどん増えてきた。そのたびにポスターや案内を作ったり…。気が付けば現職時代の様々なこと

がフル回転。当然、結果が出るのは先の話。数年先に効果が現れるのではということも少なくない。そんな中、柿の苗木を植えた。地域柄まともに実をつけるところまでいけないかもしれないが温暖化の関係で、もしかしたら。いや、これから少なくとも8年はがんばるぞという決意の一手でもある。いささか子どもっぽい発想の数々ではあるが、こんなことが面白くてしょうがない。折角の残りの人生を思いつき楽しんでいきたいものだ。

宮崎県退職校長会会報

「芳馨」第93号

三つの財（たから）

西都支部 緒方 俊郎



生まれ故郷の三財に住んで7

年目になる。出会う方々に「あなたにとっての三つの財は何ですか」と尋ねることがよくある。地域のある年配の方は「そりあ、

三財の山と川とこの大地よ」と自信をもって即座に答えられた。自分を勘定に入れずに、故郷に誇りと感謝と夢を抱く大先輩に敬意の念で一杯になった。バレーの練習試合の時もよく他校の生徒たち聞くことがある。その中で「仲間とシューズと体育館です」と答えたキャプテンがいた。流石に、我がチームが勝てない所以だと感じ入った。

私はというと「家族と健康と出合い」と答えている。今後、もっともっと「家族」に感謝し、「今ある健康」をさらに磨き、「出合いのあいは愛である」をモットーに笑顔で精一杯生きていく所存である。

「万歳！万歳！三財！」と。



埼玉県退職校長会

「会報」第170号

思っていること

春日部 小保方 敏美

「おはよう」朝は、どうも元

気がない。下校時は元気だ。

「こんにちは！お帰り！」「ただいま！今日ね、ザリガニ釣った」「これから〇〇ちゃんと遊ぶんだー」「七夕祭り、今度だよね？」うっかりしていると背中から声をかけられる。実にいい。

今年は新型コロナウイルスのせいでもっと様子が違う。マスクに赤い顔。俯き加減。小声のあいさつ。開放感に満ちている筈の下校に、今ひとつ元気がない。七夕祭りも寺子屋も中止、地区体育祭も中止。ちよつと寂しいけど我慢して乗り切るしかない。

登下校指導は、7年になる。自治会に関わってから始めたことだ。残念ながら私は、春日部の住人ながら春日部の学校に勤めたことがない。土地っ子でもない。自治会に関わって、如何に地域を知らないか痛感した。知らない道や公園。地域の様子人々。目から鱗のような発見と感動があった。「こんない所に住んでたんだ」そう思った。駅も商店もそう近くない。不便

は沢山ある。でも、それを越えた環境と人が居る。

通学時の危険も知った。車との事故もあった。100人近い子ども達の安全をどう守るか。自治会に眠っていた横断旗を持ち出し、登下校指導を始めた。時には泣いている子の手を引いて学校まで連れて行く。ころんだ子用に、救急絆創膏とティッシュも常備するようになった。賛同者を得て3人体制もできた。自治会有志の下校指導も月3回が恒常化した。後の隙間は私が埋める。

毎日のことなので、子ども達の顔も名前も覚える。自治会活動でそれが武器になった。子どもを通して親と親しくなる。じじばばとも親しくなる。あいさつや立ち話が増える。時に相談事も舞い込む。コミュニティが広がる。

やがて、黄色い帽子をかぶった子等が、中学生、高校生になり、まるで蝶が羽化するようになり、大きな変貌を見せて、同じ路を

通る。ここでは、オギヤと産まれた時から幼・小・中・高・大、果ては社会人まで、人間の成長過程をみる事ができる。中学教師としてそれなりにやってきたつもりでいたが、現職時にこの姿をみていたら、まだまだやれることがあった。そんな思いが湧いてくる。

4年前、勝手にやっていたことにスクールガードリーダーというお墨付きを頂いた。有り難いことだと思った。



香川県退職校長会

「會報」第28号

## 里山・里海で

### 子どもたちと自然体験を

坂出 宮下 良造

毎年、夏休みに開催される「トンボ学校」に、指導員として地域の仲間と活動している。

坂出市大越町の「交流の里おうち」で、小学生とトンボの採集やヤゴの観察をしたり、水鉄

砲や焼き板を作ったりして自然との触れ合いを楽しんでいる。

また、海が近いので海岸の生き物を観察したり、採集をしたりして生物の多様性に気づく活動も取り入れている。カニやヤドカリの棲む場所、生活の工夫、食べ物などを通して、生き物への愛着、命の営みを鋭い感覚でとらえ、里海のよさも学んでいるのを見ると、子どもたちの自然に対する感覚の鋭さに驚かされる。さらに、海岸に漂着した海ゴミの調査から、ペットボトル等のプラスチック製品の漂着物の多さに驚き、ゴミを減らすために自分たちにできることはないかといった環境への気づきや、自分への振り返りも学び取ることができているのである。

このように、「トンボ学校」の自然体験が、命の大切さを学んだり、自然環境を考えたりする絶好の機会になってくれていることをうれしく思っている。今年も、新型コロナウイルスの感染防止のために、開催が危ぶ

まれている。早く終息してくれ  
ることを願っている。



広島市退職校長会

「会報」第90号

### 金魚と共に

安佐北・西区 西山 樹

金魚飼育を始めて50年余り。  
初めはいろいろな種類を集める  
ことに熱中していたが、「土佐  
金」という尾ひれの特にきれい  
な金魚との出会いが、長年にわ  
たり飼育を続けるきっかけとな  
った。

現職の頃は、細々と水槽飼育  
をしていたが、退職してすぐに  
60㎡のビニールハウスを建て、  
地下水汲み上げ用のポンプを設  
置。36面の池を作り本格的な飼  
育を始めた。

飼育は試行錯誤の連続であっ  
た。自然孵化しにくい種類は、  
人工孵化しなければならぬ。  
せっかく孵化しても病気になる  
て死んでしまう稚魚も多い。池

の中での適正な飼育数に気付く  
まで何年もかかった。魚巢はビ  
ニールひもをボンボン状に割い  
て自作した。水温10度以上にな  
ると餌やり水替えをし、それ以  
下だと控える。現在、4種類4  
百匹位の飼育数に抑えている。

金魚が孵化して1か月くらい  
は、餌のミジンコ採りで苦労す  
る。現職の頃には、4時半に起  
きて田んぼにミジンコを採りに  
行き、稚魚に与えた後に食事、  
出勤の日々であった。

これからも、急がずゆっくり、  
手抜きをせず、美しい姿の金魚  
を追いかけていきたい。



鳥取県退職校長会会報

「積雲」第95号

### じげ(地元)に生き

### じげ(地元)に活かされ

東伯 竹中 徳

私の地元琴浦町では、「琴浦  
こども塾」を開いている。これ  
は、町内の子ども達を対象に、

「論語を通して自らの生き方・  
過ごし方を考えると共に、地元  
に誇りと愛着を持ち、次代を担  
うこどもを育成する」ことを目  
標としている。いわば、スポー  
ツ少年団の文化版のようなもの  
だ。

長年教職に携わり少しは貢献  
できたように思うが、自分が生  
まれてきていないようで、気にな  
っていた。

そうした中で、琴浦こども塾  
に関わることとなった。町内の  
子ども(小四〜中一)を対象に、  
一回二時間、月二回実施してい  
る。内容は、論語を通した座学  
の学び、茶道を通した学び、郷  
土の偉人や地元で活躍されてい  
る方々を通した学び、地域の伝  
統や文化を通した学び等を提供  
している。

子ども達は、新しい学びを体  
験し、自分自身の生活に活かし  
ていく姿勢や他校の人との学び  
を通して、コミュニケーション  
力や自己表現力等が育って来て

いることを実感する。子ども達  
の学びを通して、私自身も共に  
学ばせてもらっていることをう  
れしく思う。

時には畑仕事をし、時には同  
じ趣味の方々と遊び、時々じげ  
の子ども達と触れ合い、じげに  
生き、じげに活かされながら、  
「自由人」として、これから過  
ごしていきたいものだ。



秋田県退職校長会

「会報」第95号

### ロードバイク

由利本荘・にかほ 菅原 耕悦

自粛生活が続く中、何か楽し  
いことはないかと考え、30年程  
前に買い、この頃ご無沙汰にし  
ているロードバイクを引っ張り  
出した。ところが、その姿は、  
見事に錆だらけで、おまけに後  
輪はペしゃんこにつぶれていた。

まずは、修理とメンテナンス  
だ。チューブを引き出しパンク  
箇所を確認。修理は比較的簡単

に終えることができたが、やっかいなのが錆落としだ。ホームセンターで錆落とし剤とチェーンオイルを買い、作業を続行した。チェーンやペダルなど、錆という錆に溶剤を塗り、ブラシでゴシゴシこすり、やっと人前に出せる程度に仕上がった。オイルを差し、ペダルを回してみよう。シャーンというきれいな音が蘇った。

次は試走だ。近所を乗り回す。なかなか良い感じと思ったら、ペダルを回すたびにカリカリといやな音がする。なぜだろうと家に戻りパソコンに向かう。「ロードバイク異音」と検索すると、「クランクのガタつき」などが出る。今は何でもパソコンが教えてくれる。しかも動画付きで。ペダルと車体を繋ぐクランク部分を動かすと確かに緩んでいる。ネジを締め、もう一度走り出す。今度は異音がしない。完璧だ。「少し走ってみよう」と、片道約15kmの前郷駅までサイクリング。駅には、おも

ちゃ列車『なかよしこよし号』が停まっていた。今年はロードバイクで遊ぶとしよう。



埼玉県退職校長会

「会報」第170号

### 楽しい人生を求めて

岩槻 岡野 功

定年退職後、社会教育指導員の仕事に従事したが、残された人生の心の拠り所を求めて、都内の書道の学校に通い始めた。書道は、月4回2年間受講の師範養成科である。中国の古典から様々な書体・書風を、また日本の書から美しさなどを学ん

だが、書の奥深さや書法習得の難しさを思い知らされた。太細、大小、潤濁、連綿、余白など、作品の重要な要素は未だ表現できない。2年の課程の修了にあたり、その先の選択に悩んだが、「やらないで後悔するより、やって後悔するほうがいい」との思い

で、4年課程の研究科に進み、先月どうにか修了できた。現在は月1回個人指導を受けている。書に費やしたこれまでの時間や経費はばかにならないが、学びから得たものはそれよりはるかに多い。また、優れた講師や共に学ぶ仲間、私に新たな世界を開いてくれた。

もうひとつ退職後に関わったものが自治会活動である。先輩方から要請がある時がタイムミン。62年育ててくれた地域への恩返しにと、副会長を経て4年間会長を務めた。

生活環境の改善など課題は多く、また様々な要望やトラブルへの対応など、苦勞もあつたが、よき理解者や応援してくれる人たちに支えられ、どうにか職を全うできた。子ども会から老人会まで多くの人々と出会えたことも大きな収穫である。

自治会長退任後は、地区社会福祉協議会事務局長の職に就いている。会のメンバーは多くが高齢者であるが、皆さん明るく

献身的で頭が下がる。出口治明氏曰く「オール・サポーターイン・グ・オール」で、支援を望む人たちや豊かな生活を願う人たちに接している。

このような地域コミュニティや社会福祉の活動を通して生まれる人々との出会いは、新たな自分を創り出してきているように思える。

出口氏は著書「還暦からの底力」で

「たくさんの人に会い、たくさん本を読み、いろいろなところに出かけて刺激を受けたら、たくさん学びが得られ、その分人生は楽しくなる」と述べている。

折りしも世はコロナ禍。大切な友人との酒宴はもとより、旅に出ることさえままならない。早くこれまでの日常が戻ることを願いつつ、しばらくは晴耕雨

読で過ごそうと思う。



五反田だより (事務局)

新型コロナウイルスの感染拡大が一向に収まる気配を見せず、変異株という別のウイルスが猛威をふるう様子を見せ始め、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発せられている。

人々は日常生活に制約や制限を課せられると、希望のある明るい生活を求めるものだ。

脳を活性化させ、心と身体の元気を取り戻す聴覚、視覚、触覚の変化に対する即時反応、手や足を使って2つの違うことをするなどを進めることが大切なことだと思う。

気持ちのいい季節になった。

人は前向きになり、新しいことに挑戦したくなる季節だ。ぜひその気持ちを大切にして楽しく一歩を踏み出してみたいものだ。新型コロナウイルスで外出を自粛した後、自分の身体が変わってしまったと感じる人は、ゆっくりゆったりと運動を再開しよう。

(O・H)

◇4月

9 部長会「令和3年度 理事会・総会要項」の検討

13 教育振興部会

16 令和2年度会計監査

19 教育課題委員会

23 部長会「理事会・総会要項」の検討

28 部長会「理事会・総会要項」の確認

◇5月

13 「理事会・総会要項」の校正

17 教育課題委員会

21 部長会 行事予定の変更について

27 「理事会・総会要項」等の各退職校長会への送付

◇6月

7 広報部会

14 広報部会

18 教育振興部会

21 広報部会

22 教育課題委員会

24 部長会 書面議決のまとめ

全連退ホームページ「表紙の写真」募集について

全連退ホームページの表紙を飾る写真を、会員の皆様から募集いたします。内容は、表紙にふさわしいものであれば、自由です。写真は3～5枚で、メールまたはプリント写真での受付といたします。採用させていただきますと、作品名とお名前を掲載して一定期間活用させていただきます。宛先は全連退広報部です。今回の募集期間は令和3年10月31日までです。

送先 メール info@zenrentai.org  
郵送 東京都品川区東五反田5-21-13-308



全連退会員  
バッジの着用を

全連退会員として、バッジを着用して、会員としての自覚と、つながりを求めましょう。送料を含めて、一個一、二〇〇円です。なお、三十個以上まとめますと、一個一、〇〇〇円となります。(全連退事務局)

編集後記

○コロナ禍で不要不急の外出自粛をせざるを得ない日々が続いておりませんが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。今年も、全連退として、総会をはじめ多くの行事・会合等が中止になりました。ワクチン接種がスムーズに進行するとともに、早くコロナ問題が収束することを願っております。○地方の会報紙から、多くの会員の文を掲載しました。ぜひご一読ください。○今回も原稿が予定通りに集まりました。ご協力に感謝申し上げます。

全連退会報 (220号)

発行 令和三年六月三十日  
発行所 東京都品川区東五反田 五二一三三三〇八  
全国連合退職校長会  
電話 〇三三四四二八七六八  
FAX 〇三三四四二八七六八  
Eメール info@zenrentai.org  
振替口座 〇〇一九〇九四四七二〇  
責任者 入子 祐三  
印刷 株式会社 信行社  
電話 〇三三四三三三六二二